

### 第3回 千早赤阪村まち・ひと・しごと創生有識者会議

日 時	平成28年1月22日(金) 午前10時～午前11時00分
場 所	保健センター 2階 多目的室
出席者	吉田(裕)委員長、井関委員、本多委員、西岡委員、豊田委員、吉田(美)委員、参田委員
事務局	まちづくり課：高橋理事、森田課長、安井課長代理、中島主事
傍聴者	1名
会議概要	1. 開会 2. 議事 (1) 人口ビジョン及び総合戦略について (2) その他 3. 閉会

#### 【意見概要】

##### 議事(1)：人口ビジョン及び総合戦略について

###### ○西岡委員

- ・教育関係のところ、教育に係る経費の支援を記載しているが、どのような方向性を考えているのか。

###### ○事務局

- ・給食費等の特定の項目について一律下げるなどではなく、教育に関する経費、例えば給食費や習い事、参考書代などに対して支援を行う予定です。

###### ○吉田委員長

- ・給食費だけでなく、色々な教育事を保護者にチョイスしていただける教育支援として打ち出せればと思います。

###### ○吉田委員

- ・全家庭に給付ではなく、申請ですか。

###### ○事務局

- ・申請主義で考えています。スキーム作りは現在行っているところです。

###### ○吉田委員長

- ・高校大学生への範囲はどうになりましたか。

###### ○事務局

- ・初回の対象は小中学生としています。まず話題づくりとして移住者を増やし、今後、様子を見て高校大学生まで範囲を広げられればと考えています。

###### ○豊田委員

- ・こういった新たな取り組みをどのように村民に周知するのでしょうか。

###### ○事務局

- ・広報紙や村内外にも発信するためHPなども駆使して発信する予定です。

###### ○吉田委員長

- ・人口ビジョンや総合戦略、別紙事業一覧も公表するのですか。

###### ○事務局

- ・その予定です。

○吉田委員長

・事業一覧については、初年度ですべてできないと思うが、いつどれを実施するのかはどう色分けするのか。

○事務局

・財源の問題もありますので、財政部局等とも連携しながら、優先度の高い事業に対し、予算や国からの補助金がついたものから順次実施していき、その都度広報紙やHPに掲載する予定です。

○井関委員

・総合戦略の14ページに記載している幼稚園児数は少なくないか。

○事務局

・こごせ幼稚園児数のみであり、私立げんき保育園の園児数は数字に反映されていないためです。

○井関委員

・現在、村内から私立中学校に通っている人数はどれくらいいますか。

○西岡委員

・毎年3人程度が村立中学校ではなく、私立中学校に通われています。

○吉田委員長

・平成29年度以降、府立富田林中高一貫校ができるので、そちらに通われる子も増えるだろうといった懸念もあります。

○西岡委員

・南河内地域、特に東部地域は自転車でも通える距離であるので、かなり痛手になると考えています。

○吉田委員長

・本村に移住すると、そういったところにも通いやすいといった打ち出しで、地域の魅力づくりを行うしかないのでは。

・他に意見はございますか。なければ、本案をもって人口ビジョン及び総合戦略として策定したいと思いたすがいかがですか。

○各委員

・問題ございません。

○吉田委員長

・では人口ビジョン及び総合戦略として策定したいと思います。誤字脱字などの細かい修正については事務局に一任したく思います。よろしいでしょうか。

○各委員

・承認。

## 議事（2）：その他

○豊田委員

・長期的に取り組まないと結果は反映されにくいと思いますが、夢を語れるような希望のある取り組みとして、中間報告等も含めて実行していただきたいと思いたす。

○西岡委員

・子どもの減少が危惧される所であり、来年度中学校の生徒がとうとう二桁台になります。全国的にみればそういった学校は多いですが、この周辺地域を見ると村はあまりにも少なすぎる。子育て世代に移住してもらえるような取り組みを積極的に行ってもらいたす。小規模校は教える側からみると一人ひとりきめ細やかに指導できるといったメリットがあるが、生徒側からみると、友達の顔ぶれも変わらない、クラス替えもな

いといった状態が続くので、最低でも2クラスは維持できるように、集団生活に対しても取り組めるようにさせてやりたいと思います。クラス替えもないという環境は、移住希望者にもマイナスなイメージをもたれる。ぜひ、魅力ある村づくりに取り組んでいただき、子どもを増やしてもらいたい。

○井関委員

・昨年度は15名ほどしか出生がなかったということで、今後の小中学校がどうなるのかが心配である。子どものころは人と人の摩擦で成長していくものでもあるので、同じ顔ぶれのままだと、そういった刺激もないまま成長することになる。また、企業誘致なども土地のしがらみなどですぐには取りかかりにくいだろう。非現実的なものは無理であるが、教育については実現的に取り組めることがたくさんあると思う。人口を増加させるには子育て世代に来ていただかないと、地域の活性化にもならない。子育て世代を呼び込める魅力をつくるには、教育の分野は実現的であり、発信しやすい。例えば芸術家や作家を講師にするなど、他市町の小中学校では取り組んでいない、マネのできないユニークな教育にも取り組んでいただければと思います。